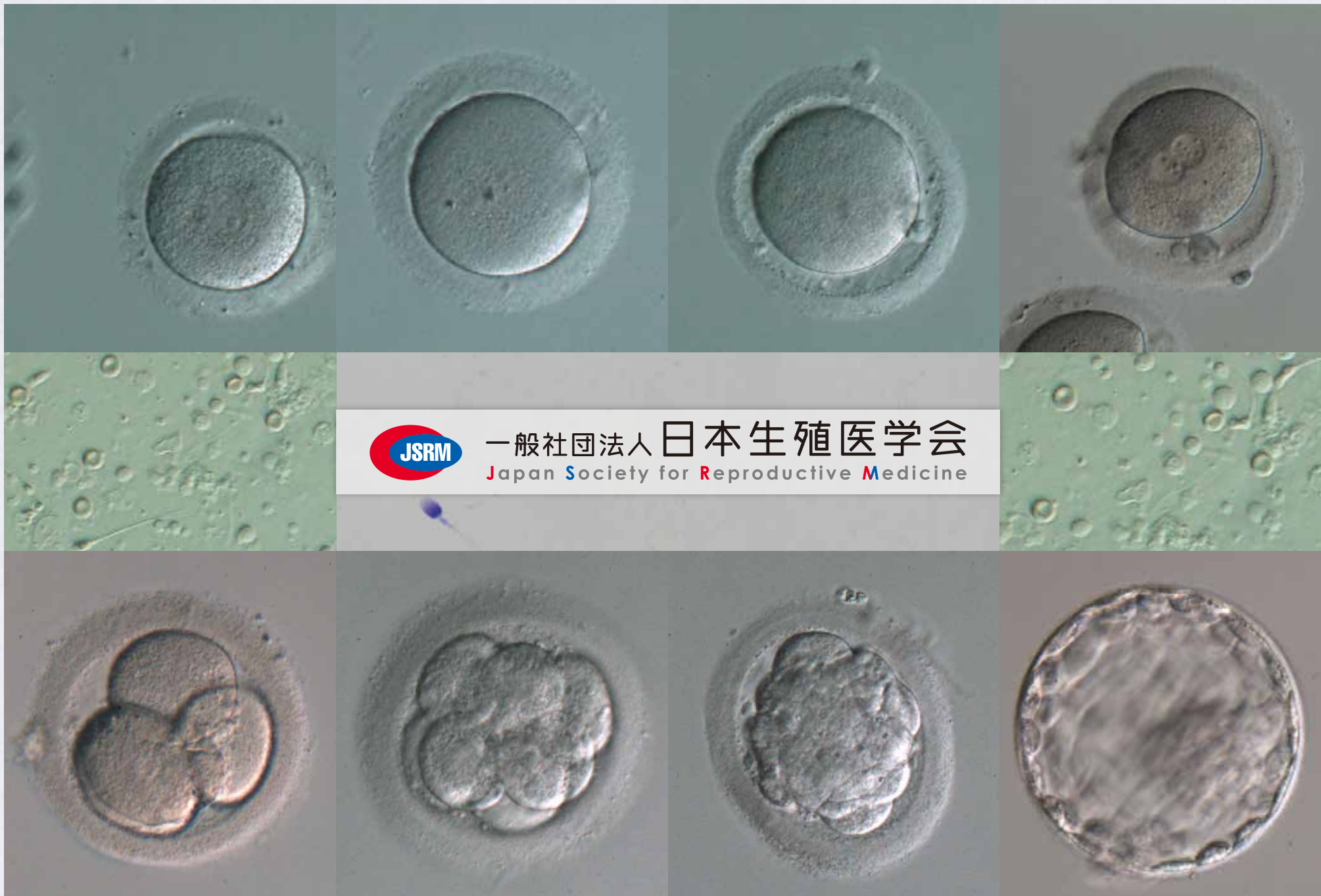




一般社団法人 日本生殖医学会
Japan Society for Reproductive Medicine

日本生殖医学会とは

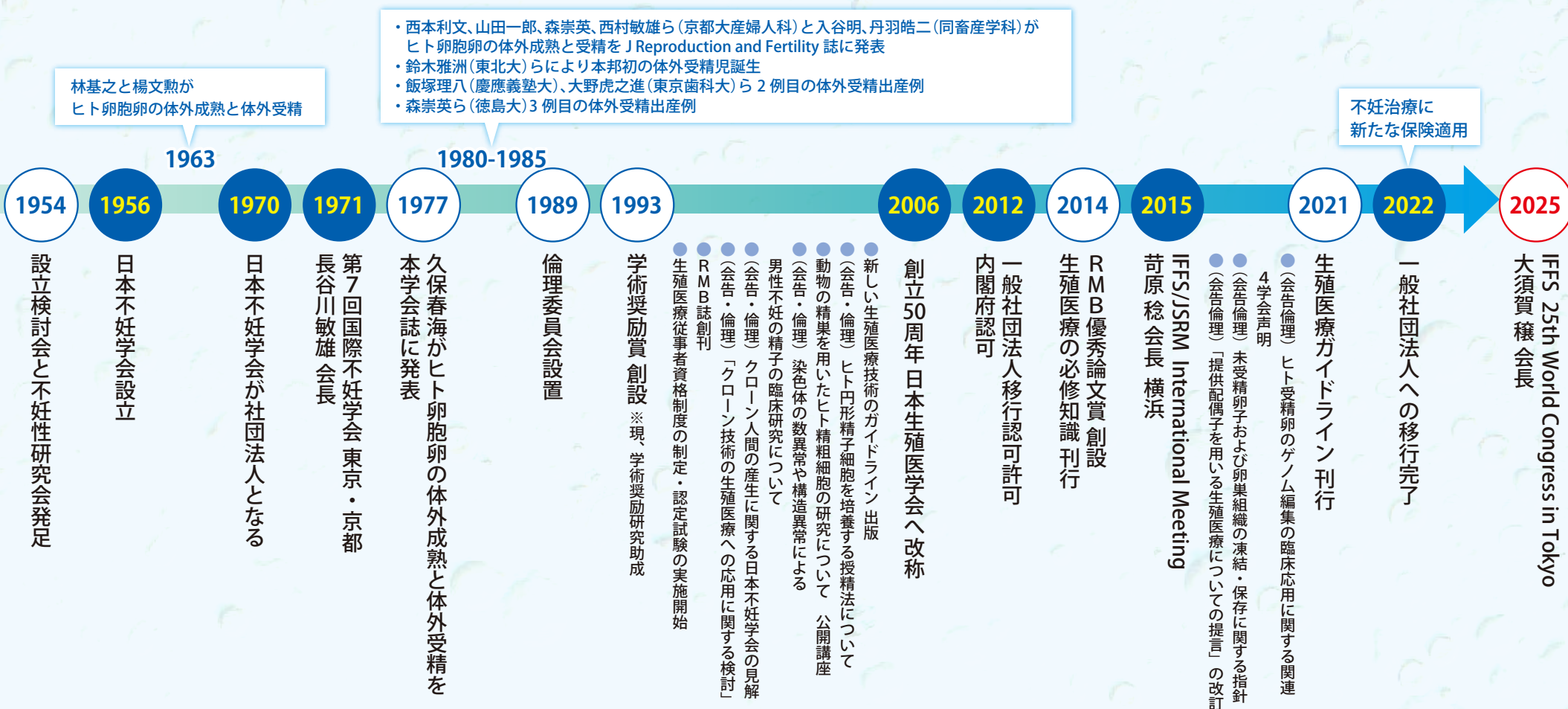
人類および家畜と動物の生殖に関する基礎的および臨床的研究をもって、学術の発展と人類の福祉に寄与することを活動の目的とする生殖医療の専門家によって構成される学術振興団体です。



ロゴマーク

精子（青）、卵子（赤）の出会いをイメージしたロゴマークは人類を含めたすべての生物の生殖をシンボルイメージとして、それまでの生物のオスとメスの記号を模したもののから、50周年の2006年に、刷新し制定されました。

沿革 まもなく70周年、そして未来へ



生殖医療の専門家集団として

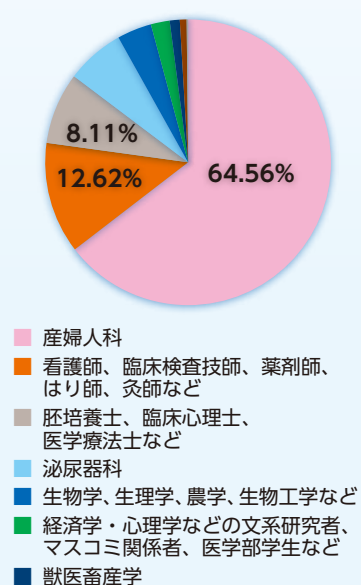
英知と良識を発揮して我が国の生殖医学を**発展**させ、
社会の指導者たらん医療人を**育成**し国民に対して安全で安心な質の高い生殖医療を**提供**します。

女性の不妊症を主に扱う産婦人科、男性の不妊症を取り扱う泌尿器科等の各領域医師、獣医師、基礎研究者、倫理法学等の社会学者、コメディカル（看護師、胚培養士）と多彩な構成となっています。2022年4月より生殖医療に新たな保険が適応され、晩婚化少子化という昨今の社会的動向においても注目の高い「不妊症」という問題について全て包括できる専門家集団の揃った本邦唯一の学会です。

会員数の推移



専攻内訳



“不妊”から“生殖医学”への名称変更

本会は50周年を機に2006年に日本不妊学会から日本生殖医学会へ名称を変更しています。

「50年の活動を経て、医学的あるいは科学的ばかりでなく、社会的、倫理的、法律的な課題に取り組む職責の必要性を強くいたしました。不妊治療という枠を超え幅広い多様な専門家集団を擁し、ともに生殖医学の発展に寄与し、常に日本での生殖医学の高い水準と、不妊に悩む患者と産まれてくる子どもの幸福と利益を守り、正しい方向に発展させていく公的使命を果たしていく」という本会の強い想いです。

現在の多様な会員構成により日々、発展に尽力しています。

学会名称変更のごあいさつ

1955年に設立した社団法人日本不妊学会は、満50周年を迎えたのを機に、名称を「社団法人日本生殖医学会」に変更することに致しました。

日本における生殖医学研究と不妊治療の最近の進歩と発展には目覚ましいものがあります。日本の医療水準は世界の最高域に到達し、生殖医学に関する研究業績は世界をリードする位置にあるといえます。この進歩と発展はひとえに、本会会員の皆様の永年にわたるたゆまぬ努力の賜物であり、改めて日夜診療や研究に従事されている会員の皆様に対して、深甚なる敬意と感謝の意を表します。このような輝かしい歴史を経て、本会が50周年の記念すべきマイルストーンを踏むことができたことを、誇らしく考えております。

しかしながら、このような生殖医学や不妊治療の進歩と発展は、本会や本会会員を取り巻く環境を大きく変化させております。すなわち、医学的あるいは科学的ばかりでなく、社会的、倫理的、法律的な様々な問題が随所に指摘されるなど、多様な意見が存在する問題を迅速かつ適切に解決する必要性が高まっており、我々が取りくまなければならない職責は、すでに不妊治療を超えたものになっています。また、最近の不妊治療において中心をなす生殖補助医療技術は、すでに不妊治療の枠組みを超えて、畜産領域における体外生産技術や繁殖など生殖に関わる様々な領域に発展しており、本会が所掌する範囲は不妊治療を超えて生殖医療（医学）（reproductive medicine）全体に及び、本会の設立当時の趣旨である不妊症に関する研究・治療という範疇を遙かに越えたものとなっています。さらに、今日の生殖医療の発展は、生殖医学の研究に携わ

研究 学会誌 (和文)・英文誌

学会誌：

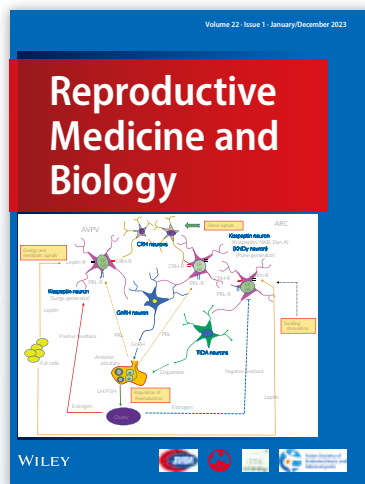
日本生殖医学会雑誌



会員への最新情報、各地方ブロック学術集会開催報告抄録、年1回、学術講演会の抄録号ともなっており、最新の生殖医学の動向を知る情報誌となっています。

英文誌：

Reproductive Medicine and Biology



2002年に本会をメインとして、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊。2016年にはアジア子宮内膜症学会が、2020年には日本卵子学会も加わりました。

現在、順調に投稿、掲載論文数が増え、年に60編以上の質の高いInvited ReviewやOriginal Articleが掲載されています。また、2002年の創刊号から掲載されている全ての論文がPubMedの検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

2021年のインパクトファクターは、4.009。OBSTETRICS & GYNECOLOGY分野におけるランクは21位(85誌中)、REPRODUCTIVE BIOLOGY分野におけるランクは11位(31誌中)と上位にランクする雑誌に大きな成長を遂げています。

交流 学術講演会・総会



1956.10.21
第1回学術講演会
慶應義塾大学北里講堂

初代理事長
安藤 晝一先生
(慶應義塾大学)
1956.4.1-1968.11.3



年1回、学生や本会会員が一堂に介し議論を行っています。数百の一般講演、特別・招請講演やシンポジウム・セミナーフォーラム等様々な企画をしています。近年は、発表が300~400、参加者は2,500~3,000人規模の大きな学術講演会に成長しています。

交流 国際交流 国内交流 ブロック SIG

国際交流

世界各国の関連学会と学術的交流や情報収集、役員派遣を行っています。



**INTERNATIONAL FEDERATION
OF FERTILITY SOCIETIES**
Fédération Internationale des Sociétés de Fertilité
Federación Internacional de Sociedades de Fertilidad

国際不妊学会連合 (IFFS) は、1968 年以来、各国の不妊学会を代表する長年にわたる世界的な組織です。現在、65 を超える各国の不妊学会を代表しており、世界の合計で推定 50,000 人の医師と生殖医学の専門家が活動しています。世界中のすべての人が質の高い不妊治療・生殖医療を受けることができるように、とのビジョンを持って、学術研究を振興するとともに、患者への優れた適切な臨床的治療を促進することを目的として活動しています。本会は加盟国として参画しています。

<https://www.iffsreproduction.org/>

2025年 IFFS World Congress 東京開催決定！

ESHRE (European Society of Human Reproduction and Embryology)

<https://www.eshre.eu/>



ASRM (American Society for Reproductive Medicine)

<https://www.asrm.org/>



KSRM (Korean Society for Reproductive Medicine)

ISAR (Indian Society for Assisted Reproduction)

にも参加や交流、役員を派遣しています。



ICMART (International Committee for Monitoring Assisted Reproductive Technologies) は生殖補助医療 (ART) に関するグローバルデータの開発、収集を取りまとめている WHO と公式関係にある国際的期間です。データ収集や情報収集に本会も日本として協力しています。

<https://www.icmartivf.org/>

国内交流

本会は基本領域学会

日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会

のサブスペシャルティ領域に位置づけられており、基本領域学会を含む関連領域の学会と多くの学術的知見の情報共有や交流があります。



ブロック

全国 8 ブロック (北海道、東北、関東、中部、北陸、関西、中国四国、九州沖縄) があり、地方で学術集会等活発な学術交流がなされています。



SIG (Special Interest Group)

2021 年から生殖医学の専門分野の学術グループを形成し、会員間の自由な情報交換を図り、研究発表、会員・患者・社会への情報発信、専門知識の集積とコンセンサス形成などさらなる学術研究活動・広報活動を促進することを目的に 3 つのグループが始動しました。シンポジウムや論文投稿等活発な活動をしています。

卵子・胚発生

Embryology Special Interest Group (ESIG)

卵胞発育、卵子成熟、胚発生、培養、卵子の加齢、ミトコンドリア、ゲノム安定性

子宮内膜症・子宮腺筋症・子宮筋腫

Female Reproductive Tract Special Interest Group (FRTSIG)

子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫、生殖内分泌、生殖外科

男性不妊

Male Infertility Special Interest Group (MiSIG)

男性不妊症、生殖外科



研究奨励

学術奨励研究助成

若手研究者の育成を目的に、生殖医学の発展に寄与すると予測される、人類及び家畜と動物の生殖に関する基礎的及び臨床的研究への助成を行っています。1研究につき100万円とし、年間総額300万円を支給（3研究まで）

※2023年度より施行。2022年度までは学術奨励賞として若手研究者の奨励をしていました。



RMB優秀論文賞

英文論文誌 Reproductive Medicine and Biology に掲載された論文ならびに研究者に対しての奨励と、本誌の活性化を目的とし、RMB優秀論文賞を授与しています。

生殖医療専門医制度

生殖医療における広い知識、練磨された技能と高い倫理性を備えた医師を養成し、更に生涯にわたる研修を推進することによって、生殖医療の水準を高めることを目的として、2006年に生殖医療専門医（Board certified by Japan Society for Reproductive Medicine）ならびに生殖医療コーディネーター（Reproductive Nursing Coordinator）の認定を開始しました。

生殖医療専門医では、その後、生殖医療専門医研修のための認定研修施設・研修連携施設の指定を行い、生殖医療専攻医は指導責任医のもと、学会の定めた研修内容に沿って臨床研修を行い、一定の水準に達した生殖医療に従事する医師を学会が認定する制度へと変容し現在に至っています。現在、約1,000名を超える生殖医療専門医（うち生殖医療指導医は300名程度）、生殖医療コーディネーター、認定研修施設、研修連携施設を指定し、生殖医療従事者資格制度の高い水準の維持・発展を図っています。なお生殖医療専門医は厚生労働省通達によって定められた、広告が可能な医師の専門性に関する資格の一つとなっています。

生殖医療専門医数と領域別割合

泌尿器科（男性不妊）	71名（7.0%）（うち指導医26名）
産婦人科（女性不妊）	950名（93.0%）（うち指導医336名）
計	1,021名

2023年4月現在

生殖医療の必修知識

生殖医療専門医を目指している専攻医および生殖医療に携わっている一般医師や生殖医療専門医を対象とした教育を目的とし、本会が総力をあげ、3年ごとに発刊しています。



生殖医療専門医制度

生殖医療専門医取得への道のり（概略）

研修開始条件

- 一般社団法人日本生殖医学会への2年以上の会員歴
- 基本領域学会（日本産科婦人科学会または日本泌尿器科学会）の専門医保持

研修開始申請

- 毎年4月～の申請期間内に研修開始登録申請をし生殖医療専攻医としての登録

研修(3年間)

- 専攻医として3年間の研修期間の中で1年以上、生殖医療専門医（指導医）の指導の下、認定研修施設に専任で所属して研修を行うこと
- 3年間の研修期間の内容
学会の出席、学会での発表（1回以上）、査読のある医学論文への発表（1編以上）、経験した症例レポートの作成

生殖医療専門医認定審査

研修修了認定審査
（書類・1次審査）

筆記試験・口頭試問
（2次審査）

詳しくはこちら



研修開始後最短で4年後の4月1日 生殖医療専門医の認定

生殖医療ガイドライン



少子高齢化が急速に進行し生殖医療、特に生殖補助医療の重要性が増している昨今の情勢から「国民・患者さんに最善の医療を提供することを第一として、生殖医療に携わるすべての方々にとって適切な指標となるような水準」を目標とした生殖補助医療の標準化の指標をお示しするため、生殖医療に特化した初めてのガイドラインを2021年に発刊しました。本ガイドラインは政府が不妊治療において新たに2022年度から保険適用を検討するうえで重要な参考にされ、我が国における生殖医療の健全な発展のため、国民の皆様信頼される生殖医療を安定して提供できるよう活用いただいています。

生殖医療Q&A

一般の方に、広く不妊症や不育症に関する基礎的な知識を知っていただくことで、妊娠についての理解を深めていただきたいと考え、2013年より不妊症や不育症に関する一般的なよくある質問をまとめました。このQ&Aは小～高等学校の教材や、報道各社、近年はこの内容を用いたチャットボットの監修事業等にも協力し、広く活用いただいています。



ガイドライン・声明

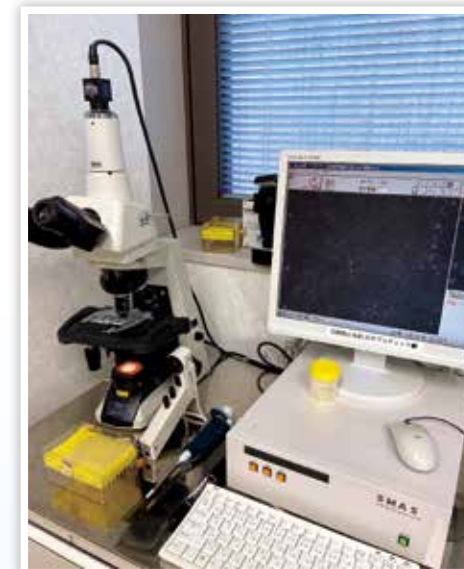


生殖医療は、生命倫理に大きく関わる医療であり、取扱いについて社会的な議論は加速度的に増えています。本会では、医療そのものに加え、法学や社会学者も交え、様々な生命倫理に関することについて検討や議論をし、不妊治療を受ける患者の幸福と、産まれてくる子供の幸福と福祉、適正な医療の在り方等様々な角度から多くの倫理的課題について社会への提言や指針を示しています。

本会の基本姿勢

国民の皆様に対して安心安全な質の高い生殖医療を提供できるよう最善を尽くします

安心安全な生殖医療とは、生まれてくる子どもの福祉が守られ、医療技術の正確性・妥当性・安全性が科学的根拠に基づき評価されている生殖医療です。現代は情報があふれ、中には正しくない情報も混在している世の中ですが、科学的根拠に基づいた生殖医療が提供されるよう、先導者として最善を尽くしてまいります。患者、国民の皆様におかれましてもよくご検討やご理解をいただいたうえで知識を深め、治療においてご選択いただきたいと思います。





一般社団法人 日本生殖医学会
Japan Society for Reproductive Medicine

<http://www.jsrm.or.jp/>

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-17 アイオス永田町503
E-mail info@jsrm.or.jp

